

MATLABの使い方

おまけ回：小技詰め合わせ



まとめページ:

<http://www.nuee.nagoya-u.ac.jp/labs/plaene/koukai/purakaku85/tsukaikata/>

図中の特殊文字



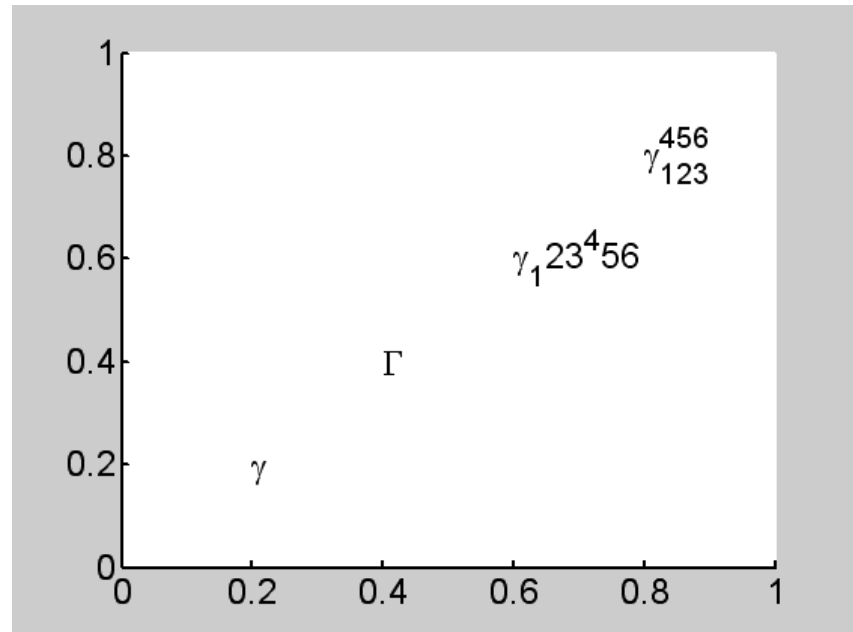
・「¥(バックスラッシュ)」でギリシャ文字を入力可能

↑ 大文字小文字の変更は先頭文字で

・「_(アンダーバー)」により下付き文字、「^(ハット)」により上付き文字を入力可能

↑ {}でまとめて変更、「_」と「^」をそのまま表示したい場合は「¥_」、「¥^」とする

```
>> figure;  
>> text(0.2,0.2,'¥gamma');  
>> text(0.4,0.4,'¥Gamma');  
>> text(0.6,0.6,'¥gamma_123^456');  
>> text(0.8,0.8,'¥gamma_{123}^{456}');
```



☆1

表示桁数を変更する



- ・MATLABは通常使う数値配列は倍精度で扱われるが、表示桁は小数点以下4桁となる
- ・表示される桁数を増やしたいときはformat関数を使う

```
disp(pi)
format long; disp(pi*2);
format short; disp(pi*3);
```

```
>> disp(pi)
    3.1416

>> format long; disp(pi*2);
    6.28318530717959

>> format short; disp(pi*3);
    9.4248
```



(')を文字として書く

- ・シングルクォーテーション(')をキャラクタ配列として変数に代入するとき、普通に「'''」と入力するとエラー
- ・シングルクォーテーションを連続して2つ置くことで1つのシングルクォーテーションとして扱われる

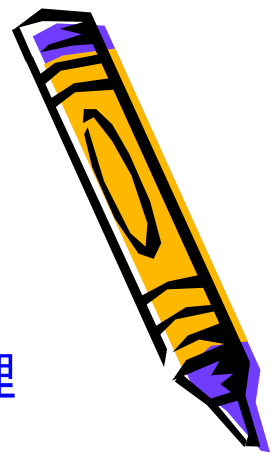
```
>> a='''  
??? a='''  
|  
>> a=''''  
a =  
,
```

エラー: 変数、関数または定数が見つかりません。"incomplete string"が見つかりました。



☆1

コマンド内容に変数を使用する



- ・evalコマンドを使うと引数となっている文字列が実行される
- ・通常の入力ではできない、例えば可変の変数名への代入処理などが実行可能
- ・シングルクォーテーションを文字列中で使う場合は数に注意
- ・関数名を可変にするときはfevalコマンドを使用

```
>> help eval
```

```
EVAL  MATLAB表現をもつ文字列の実行
```

```
EVAL(s) は、s が文字列のとき、文字列を式またはステートメントとして実行します。
```

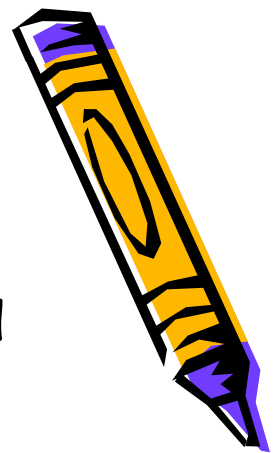
evalコマンド使用の例

```
>> a='b';  
>> eval([a ' =1'])  
  
b =  
    1                                b=1  
  
>> eval([''' a =1'''])  
  
ans =  
    b=1  
  
>>
```



☆2

テキストファイルの読み書き

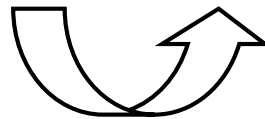


- ・文字と数字の混ざったテキストファイルを扱うときはtextreadが使えるが、低水準のI/Oコマンドを使用する方が低リスク
- ・テキスト内容の書き換えにはfscanfとfprintf

全読み込みと全書き込みの例

```
fnm='読みたいデータファイル名';  
fid=fopen(fnm);  
data=fscanf(fid,'%c');  
fclose(fid);
```

```
fnm='書きたいデータファイル名';  
fid=fopen(fnm,'w');  
fprintf(fid,'%c',data);  
fclose(fid);
```



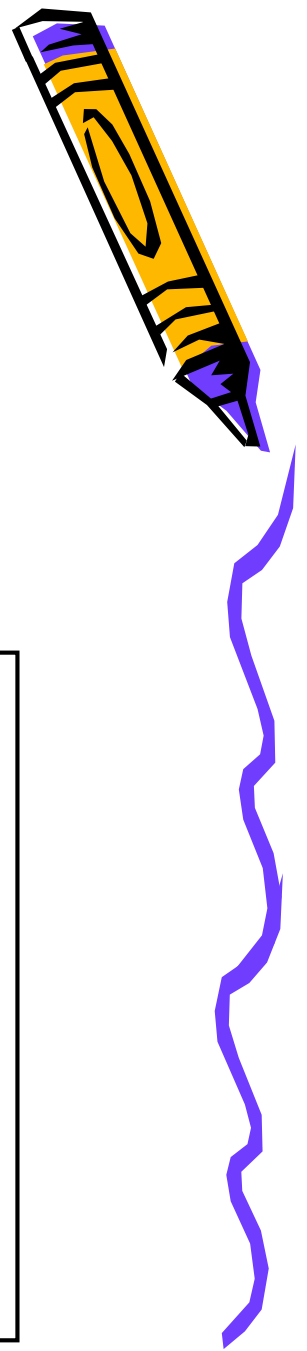
ファイル操作

```
findstr, strcmp, strncmp, strcmpi,  
strmatch: 文字列の検出、比較
```



☆1

バイナリファイルの読み書き



- ・バイナリファイルの読み書きにはfreadとfwrite
- ・サイズや型式をヘッダファイルなどから予め読み出しておく
- ・最後はreshapeとpermuteで変数の形を整形する

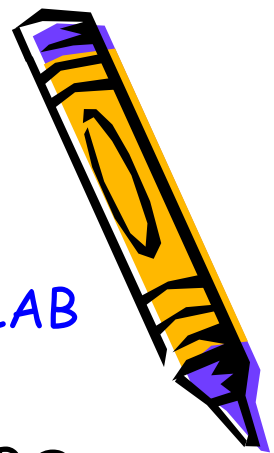
読み込みの例(高速カメラのrawwデータ)

```
sizea=[256,128]; % width & height
precision='uint16=>double'; % uint16をdouble型へ変換
fnm='読みたいデータファイル名';
fid=fopen(fnm);
img=fread(fid,prod(sizea),precision);
fclose(fid);
img=reshape(img,sizea); % sizeaのサイズに整形
img=permute(img,[2,1]); % 縦と横を入れ替え
```



☆1

dos,unixコマンドの使用



- ・dos, unix関数によりコマンドプロンプトで動くプログラムをMATLABから実行可能
- ・文末にアンド(&)を加えることでDOSウィンドウを起動(MATLABの処理は継続)
- ・アンド(&)を挟むことで複数行のコマンド入力が可能

dosコマンド使用の例

```
>> dos('cmd &');  
>> dos('make');  
make: *** No targets specified and no makefile found. Stop.  
>> dos('make & exit &');
```

```
c:\ H:\WINDOWS\system32\cmd.exe - cmd  
Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]  
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.  
C:\>_
```



☆1

cygwin環境をMATLABで!

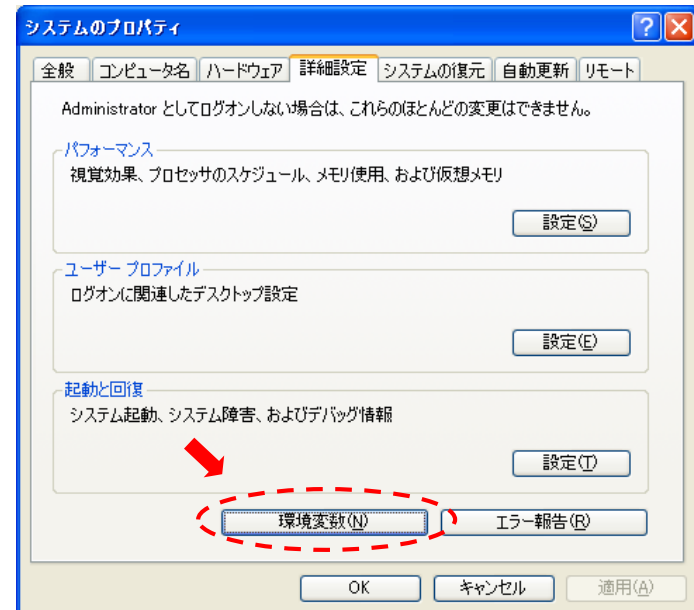


- cygwin(<http://www.cygwin.com/>)をインストールするとwindowsマシンでunix環境が実現できる
- MATLABのdos, unix関数でunixコマンドを使うときは、cygwinのインストールディレクトリを環境変数に登録しておく必要がある

例えば('C:¥cygwin¥bin')にunixの関数が格納されているときは

```
setenv('PATH',[getenv('PATH') ...  
';C:¥cygwin¥bin']);
```

↑
コマンド・手動どちらから
設定してもOK →

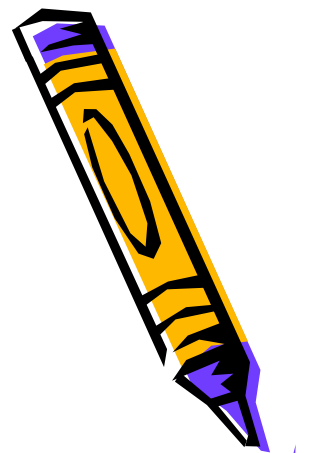


http://www.mathworks.co.jp/help/ja_JP/techdoc/ref/setenv.html



☆2

可変入出力引数関数の作成



- ・varargin, varargoutにより入出力引数の数が可変のユーザー定義関数を作成可能
- ・nargin, nargsoutは引数の数決定の参考に使える

可変出力引数をもつ関数の作成例

```
1 function [varargout]=slice_matrix(matrix,dim)
2 % [A,B,...]=SLICE_MATRIX(MATRIX,DIM)は、配列MATRIX=CAT(DIM,A,B,...)を
3 % 次元DIMの方向に分割して(A,B,...)を返します。
4 - len=size(matrix,dim);
5 - if nargin<len, error('出力引数の数が一致しません'); end
6 - for ii=1:len
7 -     if dim==1
8 -         varargout{ii}=matrix(ii,:);
9 -     else
10 -         eval(['varargout{ii}=matrix(' repmat(':',',',1,dim-1) 'ii);']);
11 -     end
12 - end
```

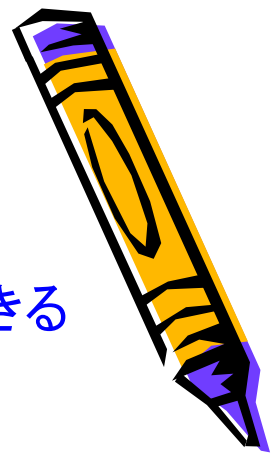
```
>> [a,b]=slice_matrix(rand(2,2),2)
a =
    0.6405
    0.2091
b =
    0.3798
    0.7833
```

varargin, varargoutはセル
配列として扱う



☆1

サブ関数(subfunction)



- function M-file内にその関数内だけで使う専用関数を定義できる
- 使い方は通常の記述の後にfunctionを定義するだけ

sample_subfunction.mの名前で保存

```
function b=sample_subfunction(a)
b=test_subfunction(a);
```

```
function d=test_subfunction(c)
d=c^2;
```

↑この部分がサブ関数

サブ関数は外からは
見えない

```
>> sample_subfunction(2)
ans =
    4
>> exist('sample_subfunction')
ans =
    2
>> exist('test_subfunction')
ans =
    0
```

http://www.mathworks.co.jp/help/ja_JP/techdoc/matlab_prog/f4-70666.html



グローバル(global)変数



・複数のM-ファイル内でたくさんの変数を共有したいとき、グローバル変数として定義すると便利

script M-file

```
script;  
global p1 p2 p3;  
p1=1; p2=2; p3=3;  
c=sample_global(2);
```

function M-file (sample_global.m)

```
function b=sample_global(a);  
global p1 p2 p3;  
b=p1*p2*p3*a;  
return;
```



双方でglobal宣言された変数は値が共有される

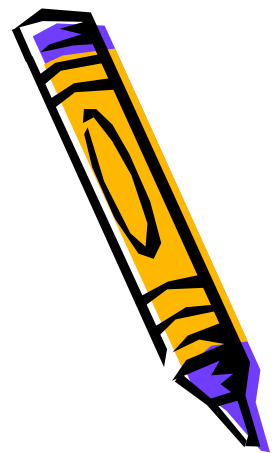
- ・who('global')によりグローバル変数のリスト化
- ・isglobalによりグローバル変数の検出

http://www.mathworks.co.jp/help/ja_JP/techdoc/ref/global.html



☆1

永続(persistent)変数



実行回数をカウントするサンプルプログラム

```
1 function num=sample_persistent
2
3 persistent p
4 if isempty(p), p=0;
5 else p=p+1;
6 end
7 num=p;
8
9 return
```

```
>> clear all
>> sample_persistent

ans =
    0    ←isempty(p)==1のためp=0

>> sample_persistent

ans =
    1    ←p==0のためp=p+1

>> sample_persistent

ans =
    2    ←p==1のためp=p+1

>> clear all
>> sample_persistent sample_persistent(関数名)
    で変数消去

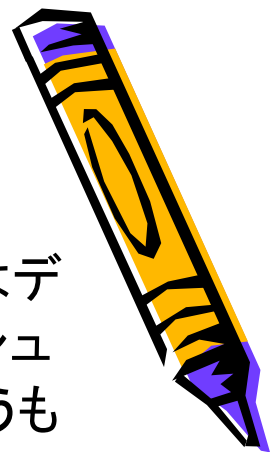
ans =
    0    ←isempty(p)==1のためp=0
```

・M-ファイル内でpersistent宣言された変数はclearされるまで「そのfunction内」でのみ値を保持する

・最初の宣言時は空行列が代入される



非等間隔データの3次元可視化



ドーナツ形状を描画するプログラム

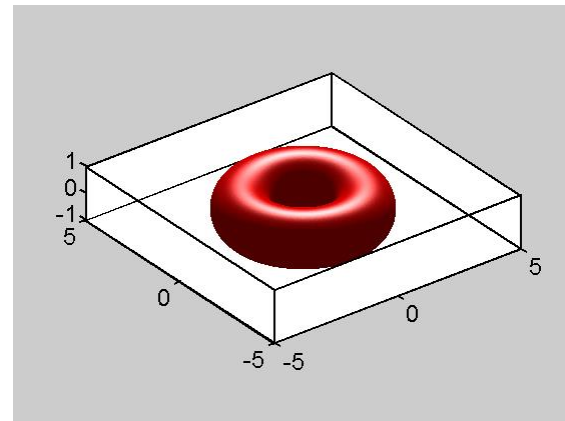
```

1 % sample_torus
2
3 *** パラメータの指定
4 a=1; % 小半径
5 r0=2; % 大半径
6 theta=(0:360)'; % ポロイダル角
7 phi=(0:360)'; % トロイダル角
8
9 lent=length(theta);
10 lenp=length(phi);
11
12 *** 頂点の指定
13 [r,z]=pol2cart(theta*pi/180,a);
14 r=r+r0;
15 vertex=zeros(lent*lenp,3);
16 for ii=1:lenp
17     phiii=phi(ii);
18     [xii,yii]=pol2cart(phiii*pi/180,r);
19     vertex((1:lent)+(ii-1)*lent,:)= [xii,yii,z];
20 end
21
22 *** 面の指定
23 faces0=[(1:lent-1)',(2:lent)',[(2:lent)',(1:lent-1)']]+lent;
24 faces=zeros((lent-1)*(lenp-1),4);
25 for ii=1:lenp-1
26     faces((1:lent-1)+(ii-1)*(lent-1,:))=faces0+lent*(ii-1);
27 end
28
29 *** 描画
30 figure;
31 p=patch('Vertices',vertex,'Faces',faces);
32 set(p,'FaceColor','red','EdgeColor','none');
33 daspect([1,1,1]); box on; camlight; lighting phong;
34 view(3);
35

```

・MATLABの可視化関数はデカルト座標(x,y,z)内でメッシュ状に配置できるデータを扱うものばかり

・例えば座標(r,z,phi)で並ぶデータを可視化する場合にはpatch関数を使うと良い

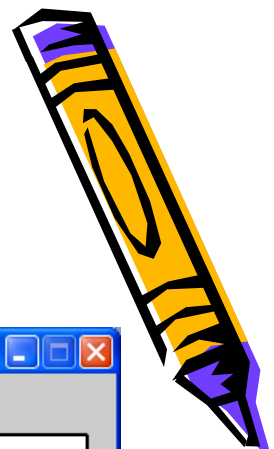


http://www.mathworks.co.jp/help/ja_JP/techdoc/visualize/f2-11758.html



☆1

ダイアログボックスによる入出力

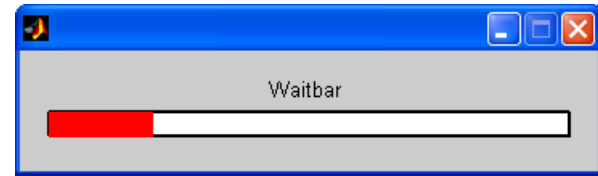


・ダイアログボックスを出現させての入出力が可能

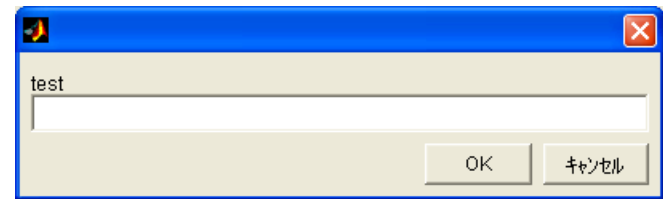
uigetfile



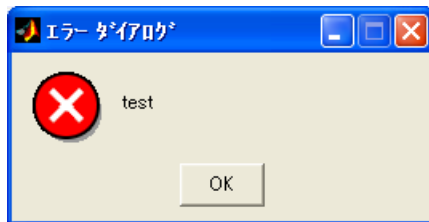
waitbar



inputdlg

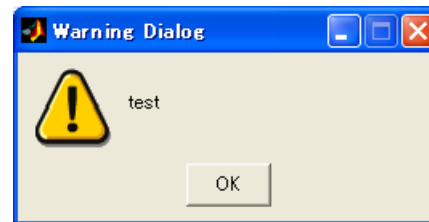


uisetcolor



errordlg

warndlg



uicontrol



☆1

マウスを使った操作



- ・ginput関数によりマウスを使って図の座標値を取得できる
- ・gtext関数によりマウスを使って図上にテキストを配置できる

```
>> help ginput
```

GINPUT マウスを使ってグラフィックスへの入力

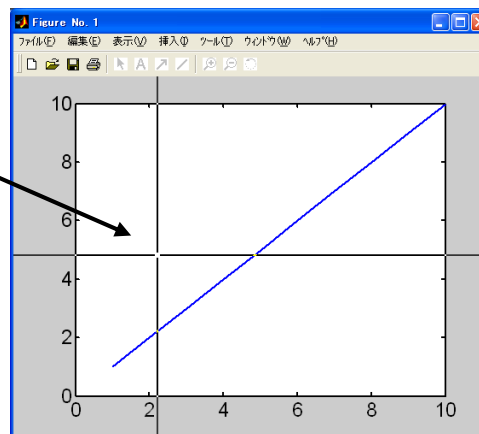
[X,Y] = GINPUT(N) は、カレントのaxesから N 点を選択し、長さ N のベクトル X と Y にX座標とY座標を出力します。カーソルは、マウスを使って位置を決めることができます(または、矢印キーを使うシステムもあります)。データ点は、マウスボタンを押すか、キャリッジリターン以外のキーにより入力されます。キャリッジリターンは、N 点が入力される前に、入力を終了します。

ginputの使用例

```
>> figure;  
>> plot(1:10);  
>> [x,y]=ginput(1)
```

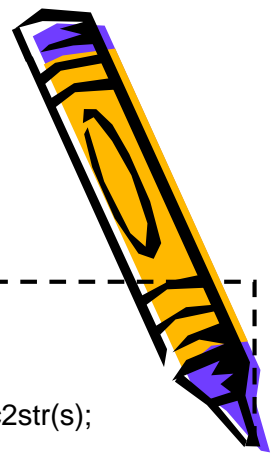
```
x =  
  
2.2285  
  
y =  
  
4.8099
```

ターゲット



☆0

Persistent変数を使った高度目なプログラム



```
function num=call_times(s,lock)
%-----
% Remember and output a number of call times
%   呼び出し回数の記憶と出力
%           Data: 2012/09/19
%           Modified: 2012/09/19
%-----
%
% NUM=CALL_TIMES(S)は、文字列・数値配列あるいは関数ハンドルS
% を入力とした「CALL_TIMES(S)」のコマンドが、過去に実行された
% 回数NUMを返します。NUMのカウントはCLEAR
% ALL/FUNCTIONS/CALL_TIMES
% コマンドにより0に初期化されます。MATLAB終了時もカウントは
% 初期化されます。
%
% NUM=CALL_TIMES(S,LOCK)はLOCK==1のとき、CLEAR関数によるカウ
% ントの初期化を防ぎます。LOCK==0により、再度初期化を可能に
% します。
%
% 参考:PERSISTENT, MLOCK, MUNLOCK, CLEAR, ISA
%
% Author(s): H. Tanaka (National Institute for Fusion Science)
```

```
if nargin<2, lock=0; end
if ischar(s)
elseif isnumeric(s), s=num2str(s);
elseif isa(s,'function_handle'), s=func2str(s);
else, error('Unsupported input!');
end

val_name=['times_' s];
eval(['persistent ' val_name ';']); % persistent変数宣言

if isempty(eval(val_name)) % 初回
    eval([val_name '=0;']);
else % 2回目以降
    eval([val_name '=' val_name '+1;']);
end
num=eval(val_name);

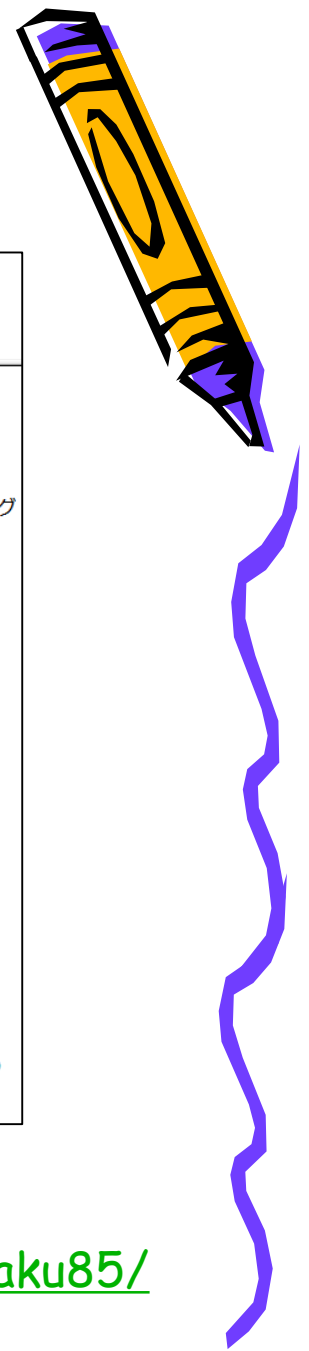
switch upper(lock) % カレントM-ファイルのロック
case {1 'ON'}, mlock;
case {0 'OFF'}, munlock;
end

return
```

コピー可



公開プログラムの宣伝



MATLAB/Octaveプログラム公開ページ

[top](#) [download](#) [help](#)

MATLAB/Octaveプログラムの公開について

プラズマ・核融合学会誌(Vol.85 No9-12 2009)に掲載された講座「[流体乱流研究から診たプラズマ乱流データの解析](#)」の中で解析に使用されたプログラムの一部 (+a) を公開しています。

- [関数パッケージのダウンロード/導入方法](#)
 - [関数パッケージの説明](#)
 - [関数の利用方法 \(サンプル\)](#)
 - [おまけ \(MATLABメモ\)](#)
- [解析手法リンク](#)

更新履歴

2019/06/27	function_190627公開
2019/03/04	function_190304公開
2019/02/13	ページを移転
2015/10/07	function_151007公開

004543

このページは[名古屋大学大学院工学研究科電気工学専攻大野研究室の田中宏彦](#)が管理しています。何かありましたら h-tanaka@ees.nagoya-u.ac.jp (@を半角にしてください) へご連絡をお願いします。



<http://www.nuee.nagoya-u.ac.jp/labs/plaene/koukai/purakaku85/>
で公開中！